

野球しようぜ! 掃除



SPCマスター#1
6-1 松本果穂さん

SPCマスター#2
6-1 緒方勇斗さん

SPCマスター#3
6-2 中村春稀さん

SPCマスター#4
4-5 安樂望泰さん

今回、これまでの彼らの活動を称え、これからの益々の活動を期待し、SPCマスターの証として赤グローブが進呈されました。大谷翔平選手は、私財を投じて「野球しようぜ!」と全国の小学校にグローブを三つずつ進呈してくれました。それと同じように、SPC顧問の坂本教頭は「掃除しようぜ!」と、私財を投じて五十回以上活動したSPCマスターに作業用グローブをもれなく進呈してくれるようです。

赤い作業用グローブの甲部分には、「SPC」の三文字とシリアルナンバーがあります。坂本教頭がマジックで一生涯懸命に書きました。

さて、継続して活動をしている児童は、何も言わなくてもほぼ毎朝自分で清掃箇所を見つけて活動しており、多いSPC会員は活動回数が五十回を超えています。それが上記写真にポーズを決める、記録用紙が四枚以上(三枚で五十回を超えます)に積み重なった四人の児童です。彼らのことを、「SPCマスター」と勝手に呼びたいと思います。

SPC(セイナン・パワー・クラブ)を創設して半年。本校合言葉「だれかのために 自分のために いっしょけんめい」の心意気で、チョコボラ(ちょこっとのボランティア)をやるうという趣旨に賛同して集まった当初の百余人は、今やおそらく実動は十五人ほどかと思われまます。じゃああとの八十五人はどこに行っただのかというと、夏の暑さにやられたか、朝遊びの誘惑に駆られたのではと推測されます。しかし、朝の校地清掃だけでなく、教室・廊下のゴミ拾いやみんなで使う場所の整理整頓、トイレのスリッパ並べなど、誰かのためにすることはたくさんあることも伝えていきます。でも、忘れていかもかもしれません。SPC集会を開かねばと思っております。



秋のひとコマ

月曜日の朝、校舎の片隅に集められたどんぐり。おそらく土日の学童に、西南小のかわいらしいリス(児童)がいたようです。

こんな頼もしい子どもたちが、西南小から少しずつ頭角を現しています。SPCマスターはまだまだ増えていくはずですよ。

グローブを手渡された四人は口々に言いました。「すごい!」「かっこいい!」「やった!」大絶賛です。次の日の作業でも、グローブをつけた手をパンパンと叩きながら、「めっちゃいい!」と満足気です。こうした彼らの喜びように、こちらもちが嬉しくなっています。

その後、少し変化がありました。実際に赤グローブを目撃したのか噂で聞いたのか、朝の活動人数がちよっと増えました。赤グローブが欲しくなったということでした。物で釣るわけではありませんが、赤グローブをゲットして益々活躍してくれたいですね。

また、赤グローブはぜひ使い込んで欲しいです。使い込めば汚れたり穴が空いたりします。そんな使い込まれた赤グローブが、使う人の強さだったり、頼りがいだったりを表している、とってもかっこいいと思うのです。そんな価値観までも共有できたら、もっと嬉しくなります。周りから頼りにされているという以上の自己肯定感の高まりが表れているように。そんな自信が四人の表情には表れています。